

災害中医学の試み～災害医療と中医学を結ぶ～

木村朗子
ともともクリニック院長

災害時、被災者は災害の直接被害（主に外傷）に引き続き、避難所生活や被災のストレスによって発生・増加する疾患リスクに曝される。代表的なものは循環器疾患、感染症、精神疾患である。また、生活の大きな変化や被災のストレスの中で、もともと患っている持病の悪化はほぼ避けられないと言っても過言ではない。

私たちは、東日本大震災以降、各地で医療相談と鍼灸治療の被災地支援ボランティア活動を継続してきた。それぞれの災害の種類、程度や範囲、地域などは異なるものの、被災者の身体や心の症状に共通の要素が認められると感じてきた。その中で、からだやこころの不調を訴える声に中医学が非常に助けになった。それは、たとえ病名がついてもつかなても、中医学の理論に基づいて弁証が行え、治療にまで繋げられるからである。

また、私たちは自らの体験からも学術的にも、心理的ストレスが身体疾患に及ぼす影響を知っている。しかし、それらを理論で結ぶ術は現代医療では乏しいと感じることも多い。一方で中医学にはそもそも「心身一如」の考えがあり、その理論は心理的ストレスが強い影響を与える被災地において、非常に役に立つ。

試みとして、「災害中医学」と題し、現代医学で言う災害医療と、中医学とを結びつけ、未病や災害に伴うストレスへの治療的アプローチを検討する。本シンポジウムでは、災害で出会った人々の例を挙げながら、中医学特有の災害医療学の構築を図りたい。